



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月10日

上場会社名 岩塚製菓株式会社 上場取引所 東
コード番号 2221 URL <https://www.iwatsukaseika.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 C00 (氏名) 榎 大介
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理部長 (氏名) 竹部 雅伸 TEL 0258-92-4111
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績 (2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	5,306	2.9	131	86.7	273	△8.8	165	△46.6
2023年3月期第1四半期	5,156	23.0	70	-	299	-	309	-

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 4,766百万円 (77.8%) 2023年3月期第1四半期 2,681百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	29.50	-
2023年3月期第1四半期	55.25	-

(注) 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、純資産額には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を「自己株式」として計上しております。また、1株当たり四半期純利益の算定上、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	88,943	66,619	74.9	11,887.43
2023年3月期	83,555	62,061	74.3	11,074.13

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 66,619百万円 2023年3月期 62,061百万円

(注) 当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、純資産額には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を「自己株式」として計上しております。また、1株当たり純資産額の算定上、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は期末発行済株式総数の計算において控除する自己株式に含めております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	37.00	37.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	0.00	-	39.00	39.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	10,300	7.4	△210	—	1,000	△77.4	700	△78.4	124.91
通期	21,800	6.9	250	—	2,000	△63.3	1,400	△64.7	249.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	5,995,000株	2023年3月期	5,995,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	390,784株	2023年3月期	390,784株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	5,604,216株	2023年3月期1Q	5,604,239株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、感染症対応の緩和や賃上げムードの拡大などから消費者マインドの改善傾向が窺われ、インバウンド需要の回復も顕著に現れてきております。しかし、金融引締めが続く欧米経済の減速による景気の下押し懸念が残り、資源・原材料価格の上昇に一服感が見られるものの物流費等の上昇傾向が続いていることから、コストの転嫁が限定的となっている中小企業を主体に依然厳しさが続くものと見込まれております。

米菓業界におきましては、斯業大手が火災事故から復旧しシェア分布も以前に戻りつつあるなか、さらなる競争激化が必至の状況となっております。一方で、原材料や電力費等の製造コストが高止まったままであり、大手各社が採算面の悪化を食い止めるべく二次の価格改定に踏み切らざるを得ないなど、極めて厳しい事業環境が続いております。

このような経営環境にあって、当社グループは、中期経営計画「新しい岩塚価値の創造」の2年目にあたり、「ドンドン造って、ガンガン売って、欠品ゼロ！」のスローガンの下、改めて供給責任を自覚し、新たなサプライチェーンの構築による欠品を起こさない体制を確立していく方針にあります。また、基本方針である「新しい岩塚価値の創造」に「ニュートレンド米菓 (BEIKA) の提案」とサブタイトルを付け、新工場「BEIKA Lab」での研究開発機能をフル活用し、「美味しさと品質」を追求するとともに、新しい岩塚価値商品をお届けしたいと考えております。

開発部門におきましては、「BEIKA Lab」においてお客様に感動していただける新しい岩塚価値商品の開発を進め、他社との差別化をいっそう際立たせたいと考えております。ファンサイトの声に応えた「THEひとつまみシリーズ」や北海道産の素材の味を生かしたコラボ商品の開発、新感覚のニュートレンドBEIKAの自信作である「RISOUNO!」における多様なパッケージの提案など、新しい岩塚価値の新商品を生み出し改良を加えております。

製造部門では、原材料や燃料、電力費などのコストアップ要因のなかで、燃料費については価格激変緩和補助政策により確実に低下しているものの、電力費は騰勢傾向が続いており、原材料においては包材等副資材の上昇が当社商品の値上げ効果を相殺、製造原価の低減を限定的なものとしております。また、前期に行った生地生産・包装工程の機械化による省人効果が生産性向上に表れているものの、係る機械化による償却負担増が工場増設に係る固定費に加わり、製造原価が高止まりする一因となっております。なお、欠品回避のため主力品ラインの増強に着手しており、増産体制を整え供給責任を果たすことを主命題として、自助努力を重ねております。

営業部門では、前期の勢いのまま主力商品 (TOP6+2) の販売に注力、一部「田舎のおかき」の出荷調整を余儀なくされたものの、総じて市場の堅調に支えられ、前期以上の販売実績を示すことができました。特に「味しらべ」「大袖振豆もち」においては大きく伸長しております。ただ、当第1四半期の後半になって、市場全体にやや伸び悩みが見られるなか、大手企業の復調に伴い競争激化が顕著となっており、販売価格の維持に努めるとともにメリハリのある販促活動を行う必要があると考えております。なお、「お米となかよし」をキーワードに情報発信に努めブランドイメージアップに取り組んでおり、認知度の向上に繋がりたいと考えております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、営業面では定番品主体に堅実な販売実績を示したなかでコストにおいて一定の原価低減効果も見られ、前年同期間比増収増益となりました。売上高は、米菓市場の堅調な推移を受け定番品をはじめ前期の好調さを維持し踏み止まることができ、53億6百万円 (前年同期間比2.9%増) と伸長しました。損益面では、製造原価が総じて高止まりしたものの燃料費や労務費の低減もあって増収効果が残り売上総利益率を改善できた結果、営業利益は1億31百万円 (前年同期間比86.7%増) と黒字を確保、経常利益は2億73百万円 (同8.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億65百万円 (同46.6%減) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は889億43百万円となり、前連結会計年度末と比較して53億87百万円の増加となりました。

流動資産は105億5百万円となり、前連結会計年度末と比較して10億93百万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が7億88百万円、受取手形及び売掛金が4億74百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は784億37百万円となり、前連結会計年度末と比較して64億81百万円の増加となりました。これは主に、投資有価証券が時価評価等により65億99百万円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は223億23百万円となり、前連結会計年度末と比較して8億30百万円の増加となりました。

流動負債は37億23百万円となり、前連結会計年度末と比較して11億87百万円の減少となりました。これは主に、買掛金が1億73百万円、未払法人税等が8億47百万円、賞与引当金が2億56百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。固定負債は185億99百万円となり、前連結会計年度末と比較して20億17百万円の増加となりました。これは主に、投資有価証券の時価評価等により繰延税金負債が21億円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は666億19百万円となり、前連結会計年度末と比較して45億57百万円の増加となりました。これは主に、投資有価証券の時価評価に伴いその他有価証券評価差額金が46億円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,540,722	3,751,861
受取手形及び売掛金	4,752,587	4,278,095
商品及び製品	517,175	525,026
仕掛品	124,230	144,687
原材料及び貯蔵品	1,402,431	1,248,770
その他	294,424	592,835
貸倒引当金	△32,580	△35,311
流動資産合計	11,598,992	10,505,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,997,600	8,014,289
その他(純額)	6,037,480	5,888,554
有形固定資産合計	14,035,081	13,902,843
無形固定資産	110,102	105,893
投資その他の資産		
投資有価証券	56,407,429	63,006,817
その他	1,436,892	1,454,356
貸倒引当金	△32,997	△32,397
投資その他の資産合計	57,811,323	64,428,776
固定資産合計	71,956,507	78,437,514
資産合計	83,555,499	88,943,478
負債の部		
流動負債		
買掛金	990,606	817,214
1年内返済予定の長期借入金	400,800	400,800
未払法人税等	869,470	22,455
賞与引当金	455,692	199,324
その他	2,195,020	2,284,180
流動負債合計	4,911,590	3,723,974
固定負債		
長期借入金	806,000	705,800
退職給付に係る負債	1,218,062	1,233,748
繰延税金負債	14,220,004	16,320,505
役員株式給付引当金	20,117	30,071
役員退職慰労引当金	5,285	1,410
その他	312,642	308,267
固定負債合計	16,582,112	18,599,802
負債合計	21,493,703	22,323,777
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,634,750	1,634,750
資本剰余金	1,859,250	1,859,250
利益剰余金	21,612,920	21,570,050
自己株式	△1,064,682	△1,064,682
株主資本合計	24,042,238	23,999,367
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38,002,555	42,602,957
退職給付に係る調整累計額	17,003	17,377
その他の包括利益累計額合計	38,019,558	42,620,334
純資産合計	62,061,796	66,619,701
負債純資産合計	83,555,499	88,943,478

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	5,156,318	5,306,982
売上原価	3,880,907	3,927,663
売上総利益	1,275,410	1,379,319
販売費及び一般管理費	1,204,801	1,247,515
営業利益	70,609	131,803
営業外収益		
受取利息	14,830	15,331
受取配当金	20,500	20,517
助成金収入	1,014	—
為替差益	115,007	94,474
その他	86,008	18,921
営業外収益合計	237,361	149,244
営業外費用		
支払利息	2,177	1,468
休止固定資産費用	2,305	2,708
貸倒引当金繰入額	3,429	2,750
その他	370	934
営業外費用合計	8,281	7,862
経常利益	299,688	273,186
特別利益		
固定資産売却益	—	173
投資有価証券売却益	160,904	3,180
特別利益合計	160,904	3,354
特別損失		
固定資産除却損	1,454	7,905
特別損失合計	1,454	7,905
税金等調整前四半期純利益	459,138	268,634
法人税、住民税及び事業税	176,854	13,896
法人税等調整額	△27,353	89,428
法人税等合計	149,500	103,324
四半期純利益	309,637	165,310
親会社株主に帰属する四半期純利益	309,637	165,310

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	309,637	165,310
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,370,286	4,600,402
退職給付に係る調整額	1,142	373
その他の包括利益合計	2,371,429	4,600,775
四半期包括利益	2,681,066	4,766,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,681,066	4,766,086
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。